

新区庁舎と市大センター病院

施設連携で電力融通

公明党横浜市議員団

仁田まさとし

2014年度の予算案を審議する市会第1回定例会が1月31日から始まりまし
た。厳しい財政状況ですが、
市民生活の安心確保、市内
経済の活性化のためにも、
重要な予算審議です。

災害時のリスク減少

私は昨年の予算代表質疑で、国から「環境未来都市」に指定された横浜市は、エネルギーの自立化、安定供給といった災害時への対応



仁田まさとし プロフィール

- 横浜市副議長
- 水道・交通委員会委員
- 大都市行財政制度特別委員会委員
- ◇施政方針は「動く、創る、変える。」
- ホームページ <http://www.nitta-m.jp/>

を進めるべきだと主張しました。新区庁舎そばの市大センター病院が電力会社から調達する特別高圧電力と
コージェネレーションシ
ステムの電力を使用し、地
中に設置した受送電ケーブル
を通して区庁舎に送電しま
す。ケーブルが地中にある
ため、災害時に電線が断線
するなどのリスクが小さく
なります。これにより、年
間約4千万円の光熱費が削
減され、二酸化炭素の排出
量も5%減ります。

この先進的な取り組みで
防災性が向上し、地球温暖
化対策にも貢献します。

地域に防災リーダー

防災・減災対策として、

市は13年度、地震防災に
関する市民憲章を策定し、
減災パンフレットを全世帯に
配布しました。

大規模災害時は、地域住
民の「自助」と助け合う「共
助」が被害を最小限にとど
めることにつながります。

そこで私は、昨年の予算代
表質疑で、市民に具体的な
減災行動を促すため、地域
に防災リーダーが必要だと
訴えました。

子どもにヘルメット

災害時に子どもの生命を
ヘルメットを支給すること
を守るため、市立小学校の児
童に折りたたむことができ
る携帯型ヘルメットを支給
することを昨年10月、公明
党横浜市議員団は、予算
案の最重要項目の一つと
して、林市長に提出してい
ました。

予算案には、小学校1年
生と特別支援学校1年生に
正・円滑な議会運営を行え
るよう努めていきます。

訴えました。

今回の予算案には、町の
防災組織の中で自助・共助
の大切さを広め、活動を担
つていく人材を育成する事
業が盛り込まれました。

南区の自主企画事業にも
地域の初期消火活動を担う
消火協力員の育成支援事業
が含まれました。今後も地
域の防災組織を拡充させる
ための取り組みが必要です。

定例会は3月25日までの
予定です。私は副議長とし
て今後も議長を補佐し、公